(博士論文要旨)

２００９年度青森県立保健大学大学院博士論文要旨

高齢パーキンソン病療養者の QOL と地域資源の利用に関する研究

分 野 名： 看護学
学籍番号： 0694006
氏　　名： 原田光子
指導教員名：藤田修三 教授

Ⅰ はじめに

Parkinson's disease (以下,PD と略)療養者は,重度な障がいの場合 QOL の向上に多くの地域資源利用が必要である．本研究の目的は,PD 療養者の地域資源の利用状態と QOL(PDQ-39 尺度を使用)の状態を調査・分析し,地域資源利用と支援について検討する.

Ⅱ 研究方法と対象

匿名式の調査紙を 2008 年 8 月 1 日～8 月 30 日の期間に，15 都道府県の全国パーキンソン病友の会会員に郵送配布・回収し，65 歳～79 歳の在宅療養者で，重症度 YahrⅢ～Ⅴの条件を充たす PD 療養者の回答を研究対象とした.

Ⅲ 結　果

分析対象は,有効回答が得られた 291 名(417 名の 69.8%)とした.因子分析の結果 PDQ-39 の評価尺度は，7 因子となり，内的整合性は良好であった．(Cronbach α係数＞0.8)　地域資源の利用は，重症度別に違いが認められ，YahrⅢ群で 4 資源，YahrⅣで 1 資源，YahrⅤ群では 3 資源であった．また，重症度別・介護負担感あり群の地域資源利用は，YahrⅢ群で 1 資源，YahrⅤ群では 3 資源であった．重症度別地域資源と重症度・介護負担感あり群の中で，重複地域資源は 2 資源(ホームヘルプサービスとディサービス・ディケア)であった．PDQ-39 値と関係が認められた利用地域資源は，YahrⅤ群では，神経内科外来診療およびディケア・ディサービスであった．ディケア・ディサービスの利用群は利用なし群に比べ QOL が高かった．PDQ-39 の Domain を重症度ごとに群別した一元配置分散分析の結果，6Domain において有意差が認められた．有意差が認められなかった Domain は，Stigma・Social support であった．このため，1 つにまとめた Stigma・Social support で重回帰分析を行った.その結果,Stigma・Social support は,Emotional well Being と Communication とに関係が認められた．また,訪問看護の利用，必要時の入院施設の確保およびホームヘルプサービスとに関係が認められた.

Ⅳ 考　察

高齢 PD 療養者は，重症度により地域資源利用に特徴が認められた．地域資源を有効に利用することにより，QOL 向上の可能性が認められた．地域資源利用による QOL 改善のためには，①重症度別に適切な地域資源の選択,②療養通所介護など PD 療養者に必要な地域資源の充実,③療養者の情緒安定や Stigma 軽減と Social support の改善のため支援が必要と考える.